

的確な構想力・提案力を高く評価

【建築
甲子園】

県大会優勝の横須賀工高表彰

神奈川県建築士会（上原伸一会長）は、2023年（第14回）の高校生「建築甲子園」神奈川県大会で優勝した県立横須賀工業高



左から上原会長、濱田さん、栗山さん、石橋さん、國島教諭、日置賢司校長

校建設科の濱田真里さん（2年生）と石橋悠太さん（1年生）、栗山

煌基さん（同）の3人を表彰した。

「地域のくらし〜まちに住む・地域に開く住まい」というテーマ（課題）に沿った的確な構想力・提案力が高く評価された。

作品のタイトルは『おかえり』がきこえる+ワンのくらし〜京急長沢駅前のペット同居可能なシェアハウス〜。濱田さんが「地域で暮らす」ということに着目した」とするよう、地元である横須賀市を舞台にあらゆる世代の人がアットホームな交流を持つ住まいづくりを提案した。

石橋さんが「この地域が持つフレンドリーな雰囲気大切にしたい」と語りを提案した。

「という思いがあった」と振り返る一方で、栗山さんは地域の活性化を軸に「閑散としている駅前に新たに人を呼び込むイメージで作品をつくり上げた」という。

表彰状を手渡した上原会長は「おかえりが聞こえる」という作品のタイトルやコンセプトにきつけられた。テーマ（課題）に対してきちんと答えを導き出すことができて」と講評。「プレゼンテーションを含めた表現力をより高めてほしい」と今後への期待も寄せた。

準優勝だった昨年からの神奈川県大会の優勝へと導いた監督の國島かほり教諭は「（準備期間が短い中で）生徒たちはアイデアと情熱で作品をつくり上げた。生徒の頑張りを評価していただいて本当にうれしく思う」と話す。

